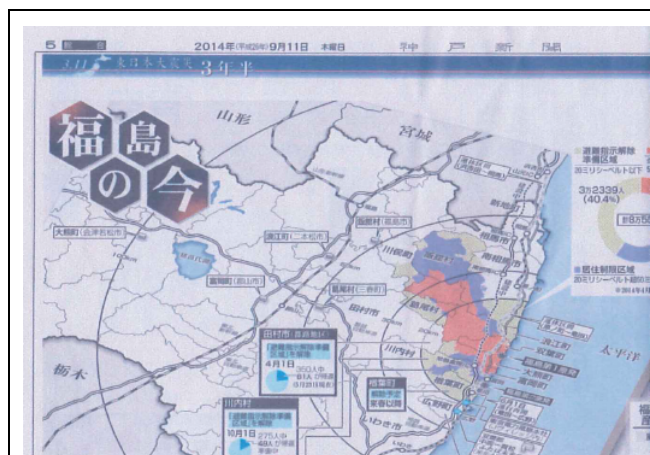


平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	兵庫県移送サービスネットワーク
活動テーマ	つなぐ～災害被災地の団体として、東日本大震災の被災地域の非営利団体に経験をつなぐ



施設輸送士運転者講習会



福祉有償運送運転者講習会



演習

活動のねらい

阪神淡路大震災から 20 年を経過し、その経験から移動支援のスペシャリストとして、豊岡大水害、中越震災支援など被災者の直接支援や被災地の地域団体への設立支援、組織の基盤強化の支援を行ってきました。東日本大震災では福島県田村市の災害ボランティアセンター時代から支援してきた地域団体「一般社団法人 情報センターFais」を設立から支援し、本事業により最終支援として期限を設定し自立プログラムを提供し2年後には収益及び組織として自立できることをねらいとした、最終章の一年目の活動をおこないました。

実施した内容

ノウハウ移転支援活動を行うために下記の内容の現地訪問をしました。

現地、訪問回数：平成 26 年 4 月～11 月 (12 回)・・・実施予定回数 訪問人員：延べ 18 名

訪問内容：施設開設前支援 ①介護保険施設関係・・・6回 ②融資、助成金関係・・・2回

③教育関係・・・3回 ④福祉有償運送及び施設輸送士運転者講習会・・・1回

活動の成果

平成 26 年 7 月 1 日より自立プログラムの一環である「小規模通所施設・古々路の郷」を開設しました。現在(平成 27 年 2 月 1 日)では 7 名の要支援・要介護利用者が、月曜日から金曜日まで通所しています。現時点では、収益は採算ラインぎりぎりまで推移していますが、職員(被災者)が作る給食がおいしいと評判を得て、問い合わせが多く近々採算ラインを越すのは問題ないと考えています。その為に、増床等も検討する必要性が出てきたと考えます。

今後の課題や展望

被災地支援最終章の第一章は施設工事の不備(工業者が見つからなかった)から開設が当初より 1 か月間遅れたが、ほぼ順調に支援できました。開設二年度から収益は安定すると思われれます。今後の課題としては、最終章の第二章としては本来の目的である「移動の困難者への移動システムの構築」の支援が必要とされると思います。来年度は、現在の支援団体を中心に①各地域の非営利団体②各地の社会福祉協議会③介護施設等と協力し移送サービス(福祉有償運送、施設輸送)や介護タクシーなどの地域システムの構築に重点をおいた支援を行う予定です。